

平成28年度
英語教育改善のための
英語力調査事業(中学校)
報告書



文部科学省

平成29年3月

平成 28 年度「英語教育改善のための英語力調査事業（中学校）」報告書 目次

1 章 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査事項及び方法	
3. 調査期間、調査対象	
4. 調査結果の解釈などに関する留意事項	
5. 調査問題の構成	
6. 出題内容	
7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準	
8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法	
2 章 調査結果の概要	17
3 章 技能ごとの調査結果の分析	49
（1）読むこと ～Reading～	50
（2）聞くこと ～Listening～	61
（3）書くこと ～Writing～	72
（4）話すこと ～Speaking～	83
4 章 追加調査結果 報告	97
（1）「話すこと」の調査に係る事前研修調査結果 報告	98
（2）「話すこと」の調査に係る検収結果	111
（3）「書くこと」の調査に係る検収結果	126
（4）「話すこと」の調査に係る実施運営調査結果 報告	136
5 章 質問紙調査結果の分析	153
6 章 学校の取組紹介	181
7 章 終章	217
<関連資料>	222
（1）本調査の背景に関する参考資料 （第2期教育振興基本計画、グローバル化に対応した英語教育改革実施計画など）	223

<参考資料>

資料1：質問紙調査結果の分析（公立学校）	229
（1）生徒質問紙	230
（2）学校質問紙	243
（3）教員質問紙	245
資料2：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（公立学校）	253
（1）生徒質問紙と読むことのクロス集計結果	254
（2）生徒質問紙と聞くことのクロス集計結果	273
（3）生徒質問紙と書くことのクロス集計結果	292
（4）生徒質問紙と話すことのクロス集計結果	311
資料3：質問紙調査結果の分析（国立学校）	329
（1）生徒質問紙	330
（2）学校質問紙	343
（3）教員質問紙	345
資料4：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（国立学校）	353
（1）生徒質問紙と読むことのクロス集計結果	354
（2）生徒質問紙と聞くことのクロス集計結果	373
（3）生徒質問紙と書くことのクロス集計結果	392
（4）生徒質問紙と話すことのクロス集計結果	411

1章 調査の概要

1. 調査の目的

- 教育基本法に基づき策定された「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）において、グローバル人材の育成に向けた取組として、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる戦略的な英語教育改善の取組の支援を行うとともに、高等学校卒業段階における英語力の目標が成果指標として掲げられた¹。
- 同年12月、文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において、小・中・高等学校の各学校段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上²することなどが提言されたことを踏まえ、フィージビリティ調査として本事業を実施した。
- 全国の無作為抽出による中学校第3学年約6万人（国公立約600校）を対象に、英語に関する4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から本調査を実施し、生徒の英語力や英語の学習状況の把握・分析を通じて、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に活用する。
- 平成27年度調査に引き続き、平成28年度も調査を実施し、本年度は中学3年生の初めての経年比較調査として行った。その分析結果を今後の英語教育の改善・充実に生かすこととしている。
- なお、本調査は、中学校における英語教育の多様性を踏まえ、世界標準に基づいて日本の中学生全体の英語力を測定するため、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照して測定することとした。

¹ 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）においては、グローバル人材育成に関する成果指標として、次の目標が掲げられた。

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

² 同実施計画においては、将来目指す生徒の英語力として、高等学校卒業時に英検2級～準1級、TOEFL iBT 57点程度以上が示された。その後、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告（平成26年9月）において、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来設定されている英語力の目標（学習指導要領に沿って設定される目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度から2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%）だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路などに応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2級～準1級、TOEFL iBT 60点前後以上などを設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要であるとの指摘がなされた。

2. 調査事項及び方法

ア. 英語力調査

- ・学習指導要領に基づき、3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）を対象とした試験を2単位時間の中で実施した（所要約75分）。
- ・「話すこと」については1校あたり1クラスを対象とし、1受験者あたり10分程度実施した。
- ・筆記テストの試験監督は、調査対象校の英語担当教員が担当した。「話すこと」の試験官は、調査対象校の英語担当教員が研修（送付された研修資材を使った事前研修）を経て担当した。

イ. 質問紙調査（生徒、英語担当教員、学校）

- ・受験した生徒に対し、英語学習に関する関心・意欲や学習状況（及び小学校外国語活動時の状況など）
- ・調査対象校の英語担当教員に対し、指導や研修の参加状況
- ・調査対象校に対し、指導計画の作成や研修の実施状況などについて質問紙調査を実施した。

ウ. 学校の取組事例

- ・調査対象校のうち、調査結果において特徴があった学校の取組について調査した。

3. 調査期間、調査対象

調査期間：平成28年6月末～7月

※上記期間内において調査対象校が希望する日程で実施。なお、筆記テストの実施日と「話すこと」のテストの実施日を分けることも可能とした。

調査対象：全国の中学校及び中等教育学校前期課程の第3学年約6万人を対象に実施。

「話すこと」のテストについては約2万人（1校あたり1クラス）を対象に実施。

学校種別の参加生徒数は、以下のとおり。

- ① 公立学校：全国で無作為抽出した 502 校（約 4 万 7 千人）
- ② 国立学校：国立大学法人附属中学校及び中等教育学校（前期課程）
77 校（約 1 万人）

（参加した学校数、生徒数及び回答した教員数）

	校数	教員数	生徒数	
			読むこと 聞くこと 書くこと	話すこと
公立学校	502	1,532	47,143	16,248
国立学校	77	286	10,485	2,968
合計	579	1,818	57,628	19,216

4. 調査結果の解釈などに関する留意事項

本調査結果の解釈などについては、以下の点に留意されたい。

- ・本調査は、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に生かすことを目的としている。また、民間事業者により提供された試験を活用するものであり、調査の結果は、生徒に求められる英語力の一部、又は学校における教育活動の一側面に関するものである。したがって、学校が日常的に行う評価に加え、英語によるコミュニケーション能力の一つの指標として本調査結果をとらえるべきであることに留意した上で、効果的な指導改善に活用されたい。
- ・本調査において用いられた試験問題は、経年比較調査を行ったこともあり原則非公開としている。ただし、指導改善のために活用できるよう、一部の問題については本報告書の中で公開して取り上げることにした。
- ・調査対象は市町村規模と学校規模をもとに抽出を行った。調査結果は母集団に対する標本の抽出率に応じて抽出ウェイトをかけて集計を行っている。そのため、度数分布の各度数とアンケート回答人数は実際の被験者数とは異なる。

5. 調査問題の構成

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・28問（32分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・32問（18分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（25分）
- 「話すこと」：音読、即興を前提とするやりとり、ある程度準備をした上で話すことについて、それぞれ評価基準を設け、英語担当教員が面接を実施・3問（約10分）

〈問題構成の全体概要〉

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	語彙・語法問題 10問 <small>（短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力）</small> ※A1相当	イラスト説明問題 8問 <small>（視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短文レベルの英文を正しく聞き分ける力）</small> ※A1相当	空所補充英作文問題 1問 <small>（対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英文を用いて表現する力）</small> ※A1相当	音読問題 1問 <small>（適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話す力）</small> ※A1～A2相当
	情報検索問題 8問 <small>（与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力）</small> ※A1相当	会話応答問題 8問 <small>（不意の問いかけに応答する適切な英文を素早く判断し、処理できる力）</small> ※A1相当	意見展開問題 1問 <small>（身近な事柄について、与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力）</small> ※A1～A2相当	質疑応答問題 1問 <small>（会話からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力）</small> ※A1～A2相当
	概要把握問題 2問 <small>（与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力）</small> ※A1相当	課題解決問題 8問 <small>（日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力）</small> ※A1相当		意見陳述問題 1問 <small>（与えられた話題について、事実と自分の意見を区別して、論理的に説明する力）</small> ※A1～A2相当
	要点理解問題 8問 <small>（まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力）</small> ※A1～A2相当	要点理解問題 8問 <small>（英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を捉えるために適切な判断をする力）</small> ※A1～A2相当		

〈参加した生徒・調査対象校の英語担当教員・調査対象校に対する質問紙調査の構成〉

項目	内容
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する意識（英語学習への関心、英語をどの程度身に付けたいかなど） ○英語の授業における言語活動の状況 ○英語の学習方法・内容や学習時間について ○英語使用に関する経験（スピーチ、ディベート大会、イングリッシュキャンプ、留学など） ○中学校入学後の英語の資格・検定試験の受験経験など
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における言語活動の指導状況（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど） ○授業における英語の使用状況 ○校内外の研修への参加状況 ○自己学習の状況 など
教員質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の状況（模擬授業、授業相互参観など） ○校内研修への参加、活用状況 など

6. 出題内容

■読むこと

出題形式：多肢選択式・3パート構成・28問

実施時間：32分

読むこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	語彙・語法問題	単文レベルの英文の中で、文脈的なつながりを理解し、かつ文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力を測定	A1レベル相当
Part B	情報検索問題	与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定	A1レベル相当
	概要把握問題	与えられた英文で述べられている情報や考えなどの概要を理解する力を測定	
Part C	要点理解問題	与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定	A1～2レベル相当

■聞くこと

出題形式：多肢選択式・4パート構成・32問

実施時間：18分

聞くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	イラスト説明問題	イラストをもとに、ある場面や状況、事物を描写説明した英文を正しく聞き分ける力を測定	A1レベル相当
Part B	会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、会話的な不意の問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理できる力を測定	A1レベル相当
Part C	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定およびイラストと放送される英文から、その場で求められているタスク（課題）を解決する力を測定	A1レベル相当
Part D	要点理解問題	一定以上の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力を測定	A1～A2レベル相当

■書くこと

出題形式：自由記述式・2パート構成・2問

実施時間：25分

書くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
1	空所補充問題	対話文中の空所に当てはまる応答を前後の文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定	A1レベル相当
2	意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する力を測定	A1～A2レベル相当

■話すこと

出題形式：音読・1問

即興を前提とするやりとり・1問

ある程度準備をした上で話すこと・1問

※調査対象校の英語担当教員が試験方法及び採点の事前研修をした上で面接を実施

実施時間：約10分

話すこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	音読問題	適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで英語を話す力を測定	A1～A2レベル相当
Part B	質疑応答問題	受験者が見聞きしたり経験したりしたことなどに基づいて、質問に即興的に応答する力を測定	A1～A2レベル相当
Part C	意見陳述問題	与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力を測定	A1～A2レベル相当

■質問紙

生徒への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する意識 <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習への関心 ・英語を身につけ何をしたいか 〔国際社会で活躍, 大学で専門的に学ぶ, 海外留学, 日常会話, 高校入試など〕 ○英語使用の経験 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生になってから経験したこと 〔イングリッシュキャンプ, スピーチ大会, プレゼンテーション, 留学, ホームステイなど〕 ○英語の資格・検定試験の受験経験 ○英語の学習時間・手段 <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習時間, PC, タブレットなど機器 ○4技能の活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で意見交換などを行っていたか
教員への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の授業での言語活動や指導 <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ, プレゼンテーション, ディベート, ディスカッションなど ○英語の授業での英語の使用状況 ○生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合 ○校内外の研修会への参加状況 ○自分の英語力を向上させるための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・英字新聞を読む, テレビの英語講座, 語学学校など ○英語の資格・検定試験の受験状況
学校への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業, 授業相互参観, 事例研究など ○学校外研修の活用状況 ○言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準

■書くこと

空所補充問題	0点		1点	
	表現	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができています。	

意見展開問題	内容・意見 課題に対する自分の意見や立場を伝えることができる。	0点		1点		2点		3点		4点	
		表現・語い	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語いを適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語いを適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな語いを文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な語いを文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。				
		表現・文法	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな文のパターンを用いることができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な文のパターンを用いることができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。				
内容・理由	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができています。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができています。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができています。					

■話すこと

	配点	0点	1点	2点	3点
Part A 音読	音読の評価	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時があるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	
	内容の評価	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど応答できない。	相手の発話に対応した適切な内容で応答できているのは半分以下である。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ応答できている。	相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに応答できている。
Part B 質疑応答	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど応答することができない。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	ほぼ適切に用いて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	適切に用いて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。
	内容、構成の評価	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を関連づけて述べている。	与えられた質問に対応した内容となっているが、論理展開がわかりやすい構成となっている。
Part C 意見陳述	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話した内容が十数語に満たない。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。

8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法

本調査における CEFR レベルの算出は、「生徒質問紙」に掲載の「英語 CAN-DO アンケート」への回答結果をもとに分析した。「英語 CAN-DO アンケート」の各アンケート項目は、文部科学省・科学研究費助成事業の CEFR-J 研究開発チーム（代表：投野由紀夫）の研究成果を用いた。CEFR の読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）の各 A1～A2 レベルに対応した CAN-DO 記述をベースにしつつ、A1 レベルは3段階に、また A2 レベルを2段階に細分化し、さらに Pre-A1 レベルを追加した。

○「英語 CAN-DO アンケート」で用いた CEFR レベル段階数：

A2 レベル→ A2.1、A2.2 の2段階（A2.1 よりも A2.2 が高いレベル）

A1 上位レベル→A1.2、A1.3 の2段階（A1.2 よりも A1.3 が高いレベル）

A1 下位レベル→Pre-A1、A1.1 の2段階（Pre-A1 よりも A1.1 が高いレベル）

※P. 14～15 参照

また、各アンケート項目への回答は、以下の例のような4つの選択肢の中から当てはまるものを1つずつ回答する形式とした。

○アンケート質問例：

簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。

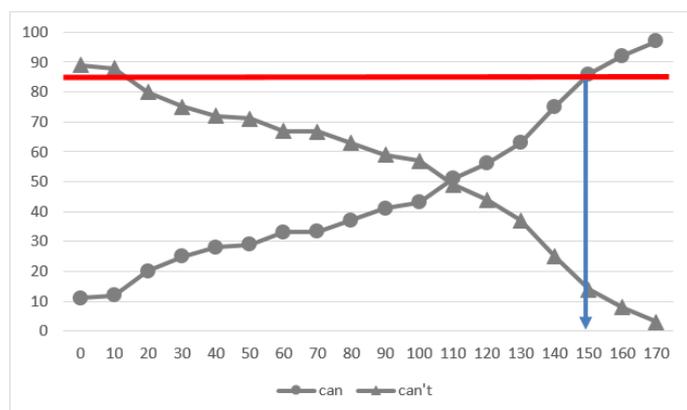
- ① 経験したことがあり、できる
- ② 経験したことはあるが、できない
- ③ 経験したことはないが、できると思う
- ④ 経験したことがなく、できないと思う

集計に当たっては、各アンケート項目で記述している言語活動が「できる（can）」と判定する方法を以下の基準に従って求め、「できる（can）」と判定された回答者（＝受験者）の英語テストのスコアと CEFR レベルとの閾（しきい）値を設定した。

○閾値の設定方法：

- ・「英語 CAN-DO アンケート」への各回答のうち、「経験したことがあり、できる」と「経験したことはないが、できると思う」の二つを当該言語活動が「できる (can)」の回答とみなし、「経験したことはあるが、できない」と「経験したことがなく、できないと思う」の二つを当該言語活動が「できない (can't)」の回答とみなした。
- ・アンケート回答者のスコアが高まるにつれて、「できない (can't)」の回答割合が減少していき、一方で「できる (can)」の回答割合が増加する。そこで、アンケート回答の「できる (can)」の割合が 85%を上回っている CEFR レベルを抽出して、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。
- ・英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルを決定する際、A1 レベルを細分化した 3 段階のうち 2 段階目、また A2 レベルを細分化した 2 段階のうち、より高い 2 段階目のアンケート項目において「できる (can)」の割合が 85%を上回っている CEFR レベルを、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。

※図はイメージであり、実際のデータではない。



左記を例にとると、該当するアンケート項目に対して、「できる (can)」の回答が 85%を上回るスコア帯は 150 点となるため、これを閾 (しきい) 値とした。

【参考】CEFR-J ディスクリプター (A1.1~B2.2 のみ抜粋)

○読むこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探ることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

○聞くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されている、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。

○書くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。	新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レターなどのビジネス文書、感情の度合いのある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。	自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。

○話すこと（発表）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を覚えて、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るることができる。	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。	要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、そこでもかなり流暢に容易に表現できる。

○話すこと（やりとり）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	基本的な話や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	順序を表す表現である first, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。	身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。	病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。	一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。

【参考】CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）

ヨーロッパ言語共通参照枠

- ・CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。
- ・欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

【参考】各種試験団体のデータによる CEFR との対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

2章 調査結果の概要

1. 国立・公立学校全体の技能別調査結果

- 「書くこと」「話すこと」の CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）¹ A1 上位以上の割合は 30~40%程度、「読むこと」「聞くこと」の割合は 20%程度である。
- 「書くこと」の得点者は全体の 85%以上（無解答：12.5%）、「話すこと」の得点者は全体の約 97%（無解答：2.9%）となっている。

【国立・公立学校全体のスコア分布】

<読むこと>

読むこと	CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
			人数	割合	人数	割合
A2	170		32,148	3.2%	33,183	3.4%
	180		11,982		10,034	
	190		14,212		13,590	
	140		18,473		18,474	
	130		25,901	23.4%	26,420	22.5%
	120		36,390		35,097	
	110		52,923		49,056	
A1 上位	100		72,878		71,380	
	90		99,537		104,236	
	80		123,353		131,915	
	70		131,898		144,522	
	60		123,688		127,964	
	50		99,011	73.3%	93,747	74.1%
	40		77,209		65,662	
	30		43,803		38,433	
	20		18,699		14,244	
	10		9,333		7,842	
	0		2,310		1,999	
平均		83.1		83.9		
調査対象		993,742		985,588		

<聞くこと>

聞くこと	CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
			人数	割合	人数	割合
A2	170		22,749	2.3%	30,038	3.0%
	180		9,277		10,904	
	150		13,590		16,302	
	140		20,951		23,663	
	130		28,026	16.4%	34,721	22.2%
	120		43,820		52,978	
	110		67,274		80,393	
A1 上位	100		104,438		119,141	
	90		145,648		144,731	
	80		174,531		188,079	
	70		188,106		136,984	
	60		111,394		90,709	
	50		51,733	79.3%	45,223	74.7%
	40		21,332		24,145	
	30		8,657		8,924	
	20		2,511		3,347	
	10		2,541		2,463	
	0		3,121		3,248	
平均		90.9		94.2		
調査対象		993,742		985,588		

<書くこと>

書くこと	CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
			人数	割合	人数	割合
A2	95		0		1	
	90		0		0	
	85		0		2	
	80		28	0.2%	0	0.1%
	75		134		129	
	70		1,510		1,241	
	65		5,968		4,557	
A1 上位	60		30,987		30,713	
	55		42,620		47,273	
	50		55,783	43.6%	92,321	51.1%
	45		83,750		89,690	
	40		117,392		126,154	
	35		98,147		112,839	
	30		92,696		93,744	
A1 下位	25		77,102		44,585	
	20		68,738		31,616	
	15		27,045	58.2%	71,797	48.7%
	10		37,080		85,897	
	5		17,908		0	
	0		190,248		153,093	
	平均		28.7		31.5	
調査対象		997,153		968,652		
0点のみ		124,318	12.5%	153,093	15.5%	

<話すこと>

話すこと	CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
			人数	割合	人数	割合
A1 上位	14		18,314		13,021	
	13		17,665		12,408	
	12		20,943	33.0%	16,917	31.6%
	11		20,153		17,108	
	10		24,448		39,794	
	9		23,390		26,701	
	8		24,233		29,098	
A1 下位	7		28,748		31,576	
	6		27,021		34,518	
	5		28,068	67.0%	29,669	68.4%
	4		29,341		0	
	3		23,515		28,151	
	2		11,662		12,944	
	1		12,222		11,770	
0		9,006		11,169		
平均		7.4		7.3		
調査対象		307,786		314,041	3.5%	
0点のみ		9,006	2.9%	11,169		

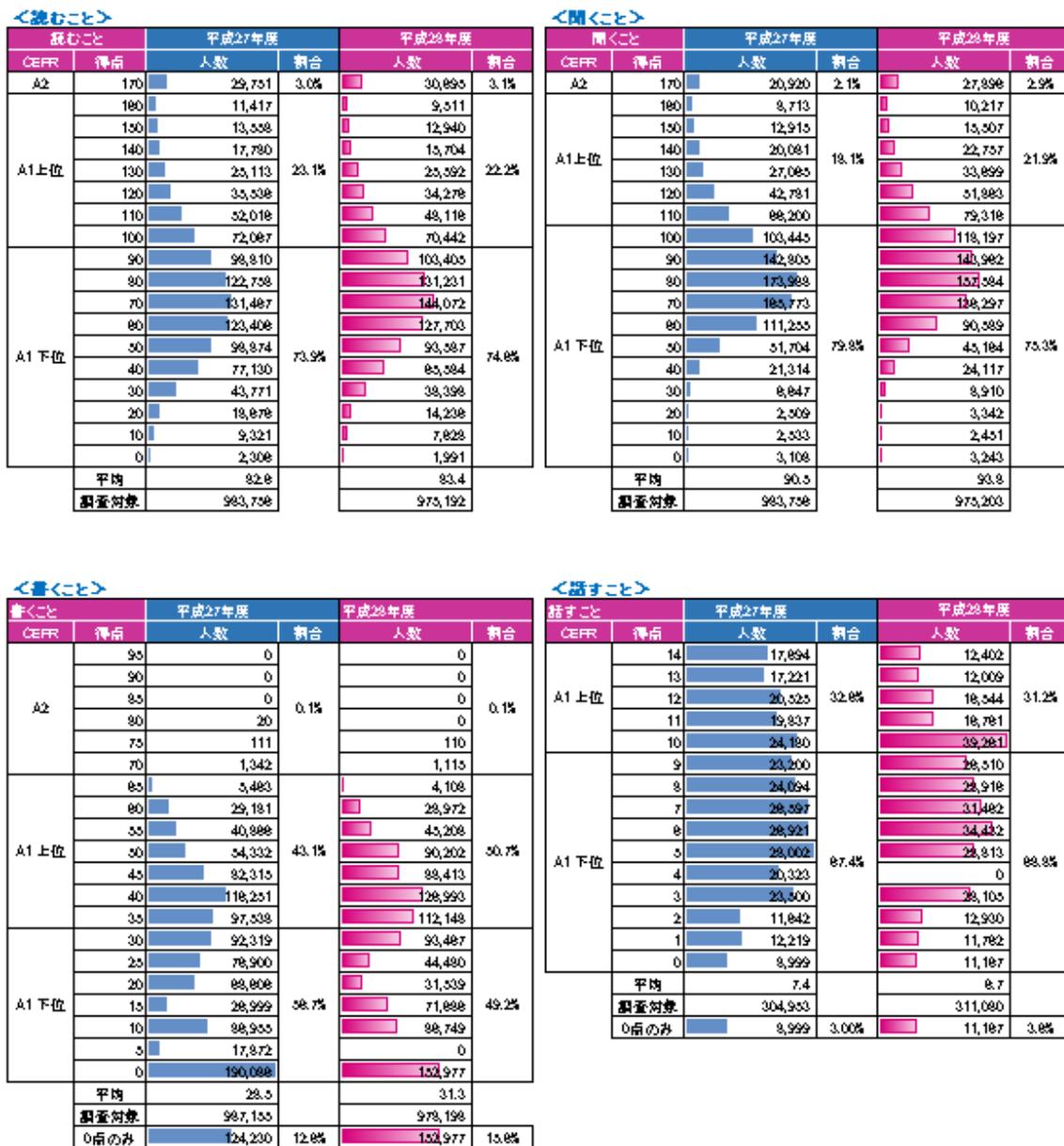
¹ CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。本調査ではテスト設計上、CEFRのA1～A2までのレベルを「読むこと」及び「聞くこと」は10点刻み、「書くこと」は5点刻み、「話すこと」は1点刻みで設定し、スコア分布の状況を見ることとした。

※第2期教育振興基本計画においては、生徒の英語力の目標を、中学校卒業段階：英検3級程度（CEFRのA1レベル）以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度（同A2～B1レベル）以上を達成した中高校生の割合が50%としている。

2. 公立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

- 公立学校における「書くこと」「話すこと」のCEFR A1 上位以上の割合は、30～50%程度、「読むこと」「聞くこと」の割合は20%程度で昨年度と同じ傾向である。
- 「書くこと」の得点者は全体の84%以上（無解答15.6%）、「話すこと」の得点者は全体の約96%以上（無解答3.6%）

【公立学校のスコア分布】



課題と指導改善のポイント (◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

読むこと

◇昨年同様、短文レベルの語彙・語法問題 (Part A) や、情報検索問題 (Part B) の中には、正解率が 70%を超えるものもある。

- ◆短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解する力に課題がある。
- ◆英文の流れを大まかに押さえながら情報を検索することに課題がある。
- ◆英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。
- ◆まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。

指導改善のポイント

- 学習者のレベルにあった短い文章をたくさん読む活動を行うとともに、文章を初めから終わりまで通して読む機会を設定する。
- 逐語的な読みから脱却し、簡単な語句や短い文章で書かれた英文を意味のまとまりごとに捉える活動を行う。
- 目的に合わせて英文を読む活動を行う。
- 読んで終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動を行う。
- A1 下位レベルの生徒においては、逐語的な読みを行い英文全体の文脈を捉えることに課題があることが考えられるため、簡単な語句や文で書かれた短い文章を繰り返し読んで、それらの概容や要点を捉えることができる活動を行う。このような活動を通じて、まず読むことへの抵抗感をなくすとともに、読んで理解できたという自信を持たせることが重要である。

聞くこと

- ◇短い英文で、問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる(「イラスト説明問題」(PartA) では 90%以上の正答率のものもある)。
- ◆英文を聞く際に、印象に残りやすい語句に引きずられてしまう傾向がある。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる
- ◆慣れ親しんでいる語句や表現が使われている選択肢を選びやすい。また、1文の中に不慣れな単語や表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。
- ◆語句単位で断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握することに課題がある。

◆まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

☞指導改善のポイント

- 多様な表現をインプット・アウトプットする活動を行う。
- まとまりのある英語を初めから終わりまで通して聞く機会を設定する。
- 聞くポイントを事前に示したり、聞く場面や状況を明確にしたりするなど、目的を持って聞く活動を行う。
- 聞いて終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動を行う。
- A1 下位レベルの生徒に対しては、日常的な話題に関する簡単な内容から必要な情報を聞き取るなどの活動を通して、聞いて理解できたという自信を持たせることが重要である。

書くこと

◇設問 2 について、全体の約 67%の生徒が自分の「考え」、約 68%の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができている。A1 下位レベルでも約 44%の生徒が自分の「考え」、約 45%の生徒が「理由」を書くことができている。

- ◆昨年度同様、文脈に沿った内容を適切に表現することに課題がある。
- ◆昨年度同様、評価の 3 つの観点「内容」「表現」「構成」の中では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。
- ◆文を作ることはできても、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
- ◆昨年度同様、無得点者が 15.6%と非常に多く、そのほとんどが無解答である。

☞指導改善のポイント

- 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、英文を書く機会を増やす工夫を行う。
- 文脈に沿った内容を書く指導の工夫を行う。
- 日常的・社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いて伝えることに対する意欲を高め、求められている内容を適切に書く指導の工夫を行う。
- 聞いたり読んだりしたことについて自分の考えなどを書いたり、「話すこと」の言語活動において発話したことを書いてまとめたりするなど、他の領域との関連付けを図る。
- A1 下位レベルの生徒に対しては、英語が嫌い、文字や綴り、文法などへの苦手意識が

強いことから、特に、①簡単な語句や文を用いて段階的に文章を書く練習を取り入れる、②日頃から、自分の考え、気持ち思いを表現する活動を繰り返し行う、③メールで書いて伝えるなど、実際のコミュニケーションの場面の中で相手に伝える活動を行うといったことを通して、生徒の意欲を高めながら書く機会を増やす工夫を行う。

話すこと

◇約 90%の生徒が、母語アクセントが残っていたり、一部発音ミスがあったりしても、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大ききさで発話することができる。

◇約 75%の生徒が、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね応答できていた。

◆約 40%の生徒は、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。

◆約 70%の生徒は、与えられた質問についてある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、意見、理由などの要素を関連付けながら考えを述べることに課題がある。

指導改善のポイント

○生徒にとってできるだけ興味・関心のある日常的・社会的な話題を取扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動を行う。

○あらかじめ原稿等を準備して話すのではなく、簡単な語句や文を用いてその場で考えて即興的に話す活動を工夫する。即興的に話す力については、一度の授業で身に付くものではないことから、例えば毎回の授業の帯活動などを通して継続的に指導することが必要である。また、既習の語句・表現を用いることができる活動の場を設定することが重要である。

○話す活動の後は、生徒が振り返ったり教員からフィードバックをしたりする機会を設ける。

○日常的・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話す活動を行う。

○A1 下位レベルの生徒に対しては、生徒が相手に伝えたいことを伝えられる簡単な語句や表現を使ってペア・ワークを行うなど生徒の意欲を高めながら話す活動を増やす

工夫を 行う。

3. 公立学校の質問紙調査結果

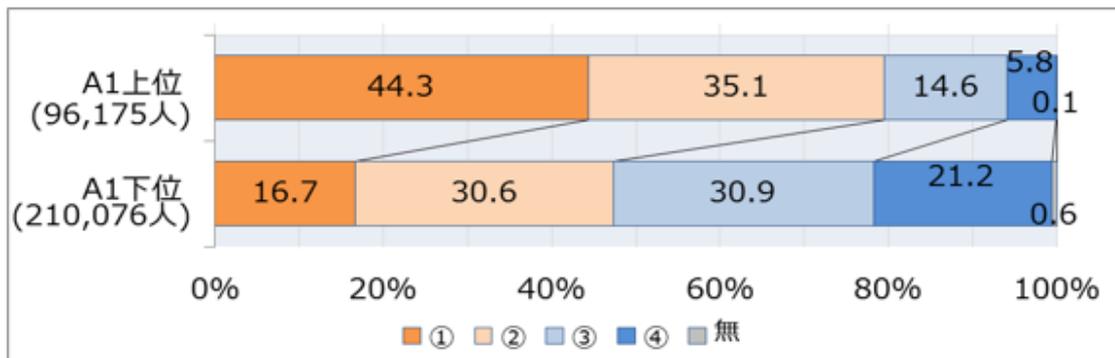
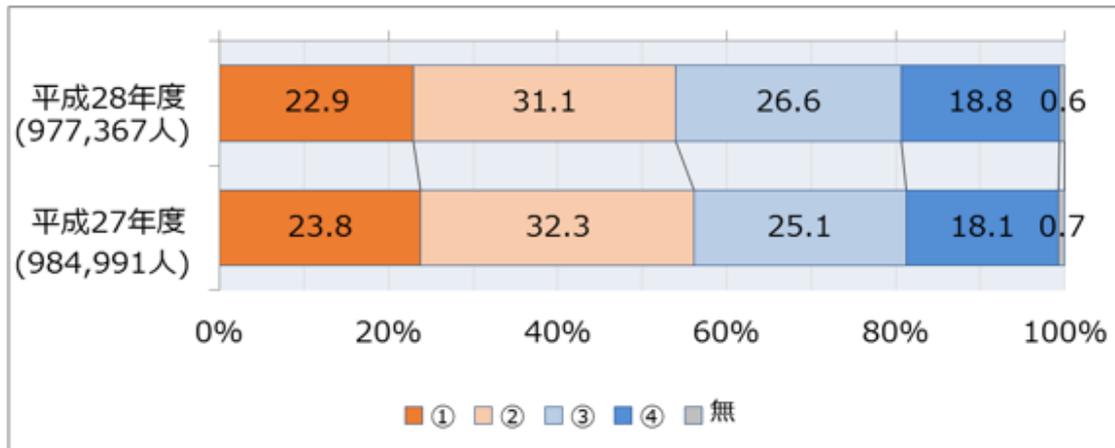
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

【英語学習に対する意識】

○「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



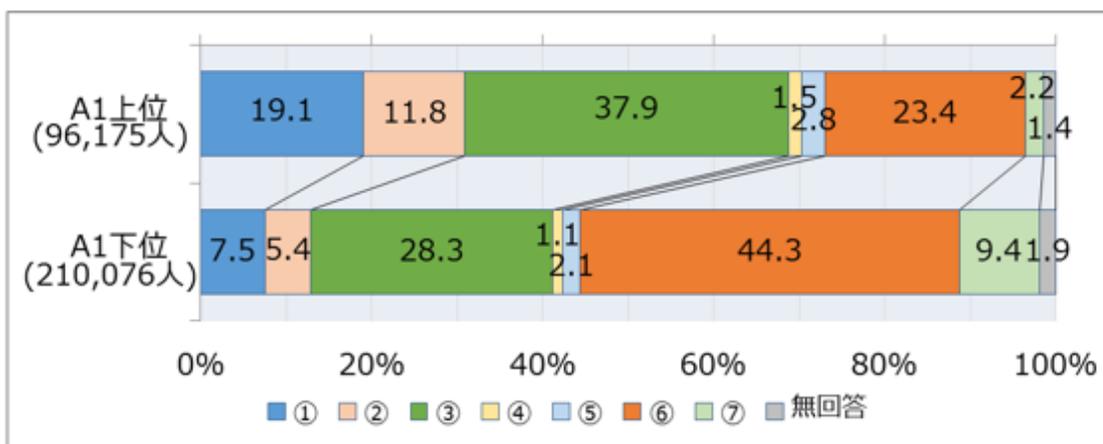
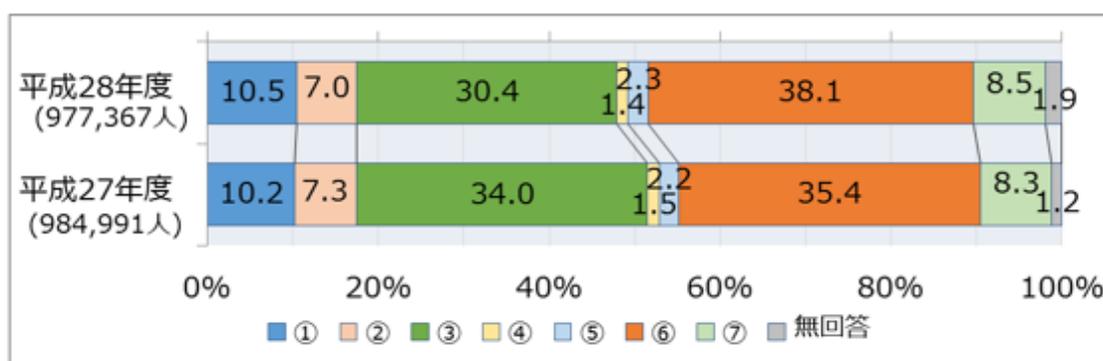
※「話すこと」のテスト結果とのクロス

【現在の英語力と将来の英語使用のイメージ】

- 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

No. 3 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ③海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ⑥高校入試に対応できる力を付けたい ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

【4技能の言語活動に対する生徒の意識】

< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」 >

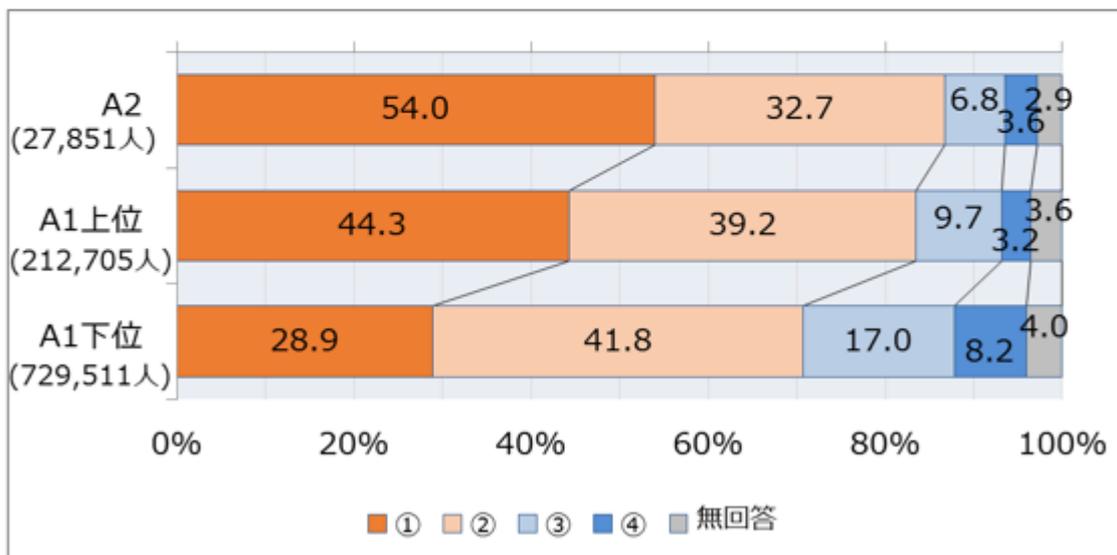
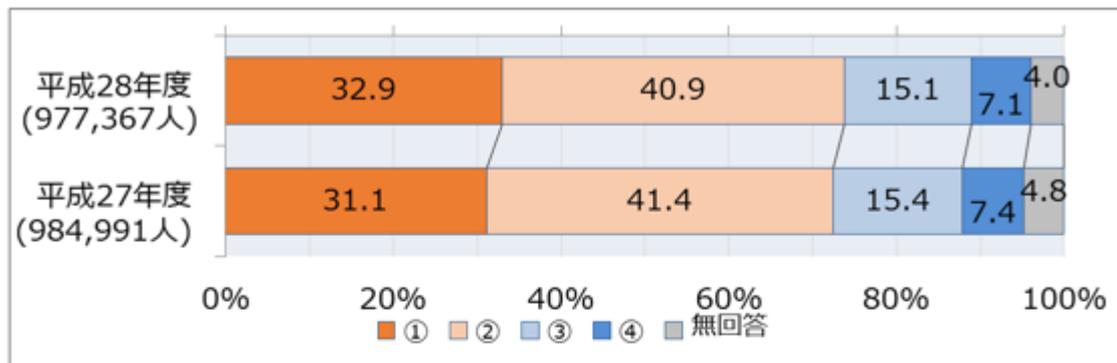
○英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、73.8%。

平成27年度の72.5%より1.3ポイント増加。

○「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.11- (2) 第2学年の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」 >

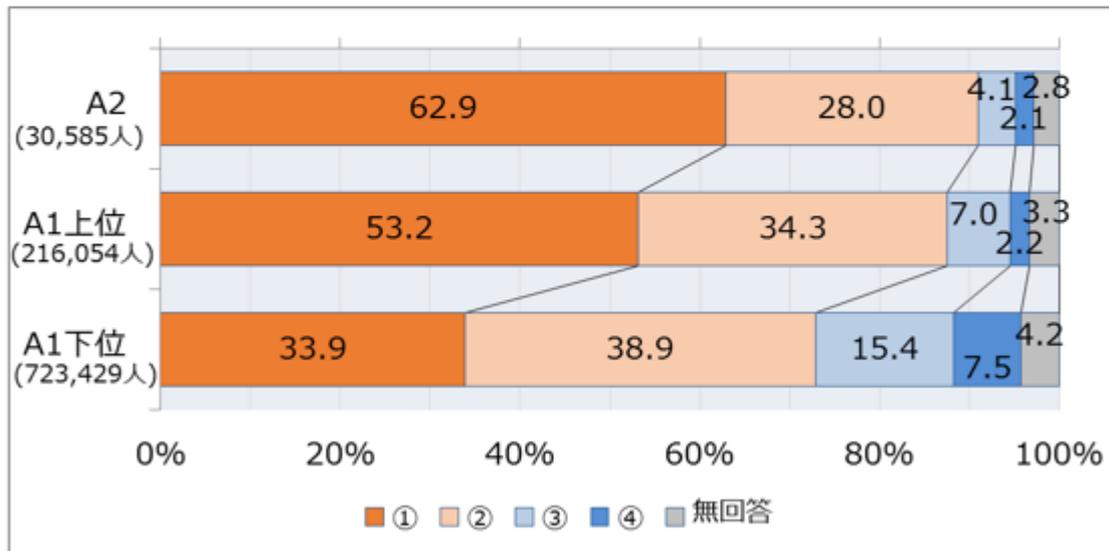
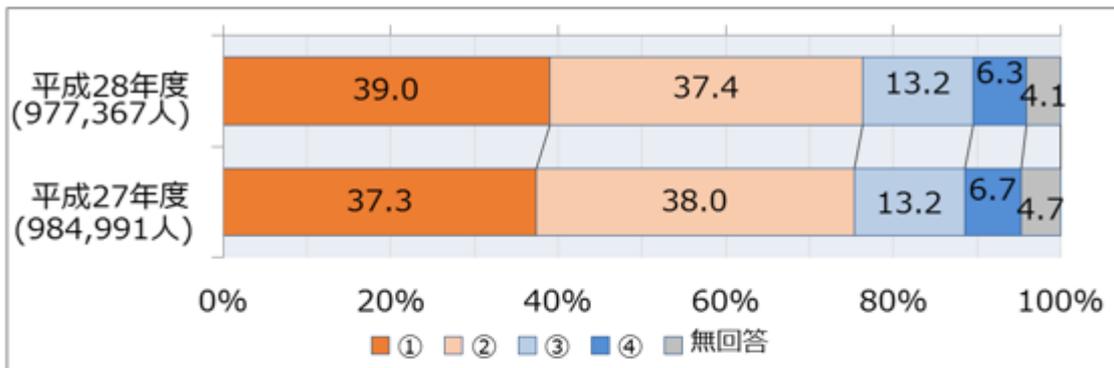
○英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、76.4%。

平成27年度の75.3%よりも1.1ポイント増加。

○「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.12- (2) 第2学年での英語の授業では、英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※ 「読むこと」のテスト結果とのクロス

< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

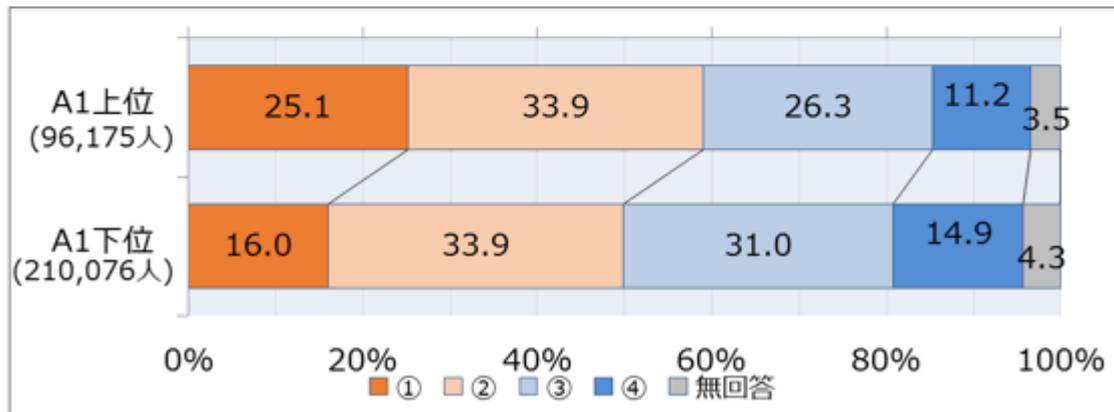
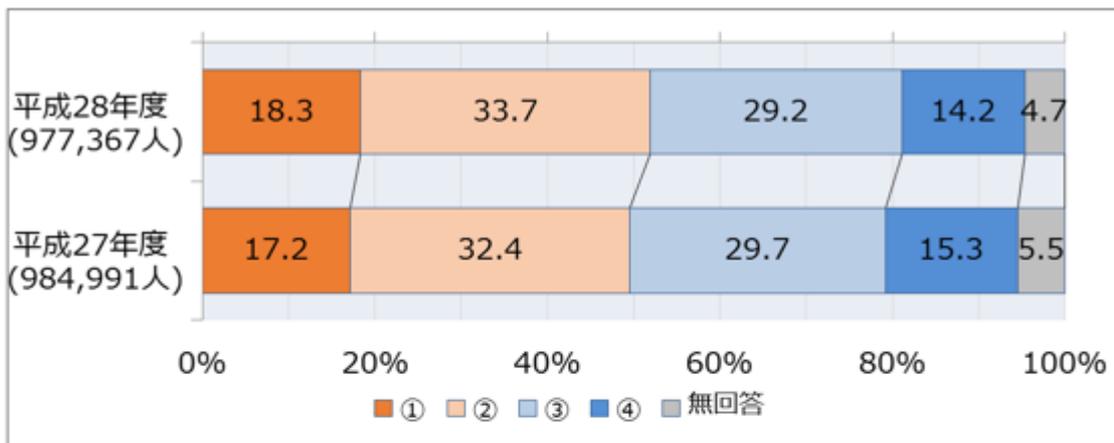
○与えられた話題について、即興で話す活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、52.0%。

平成27年度の49.6%より2.4ポイント増加。

○「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.14- (2) 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス

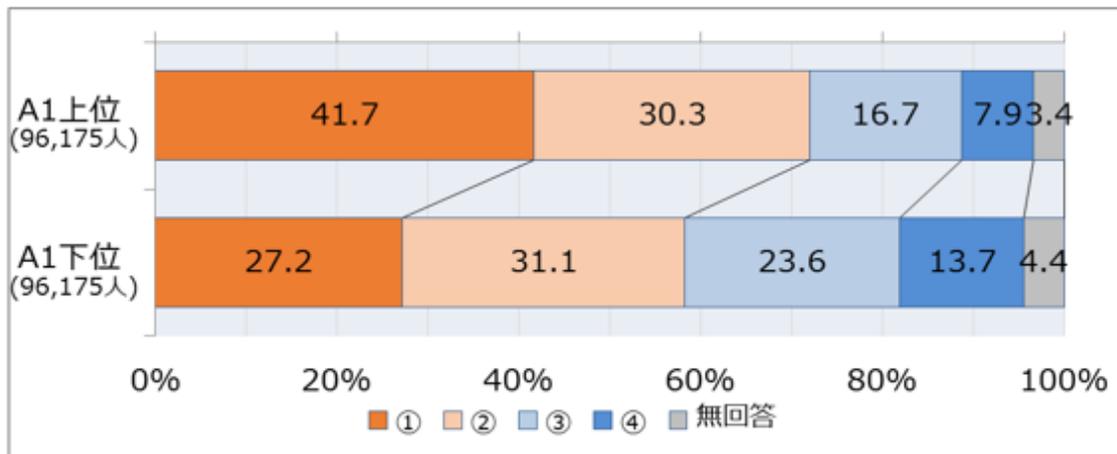
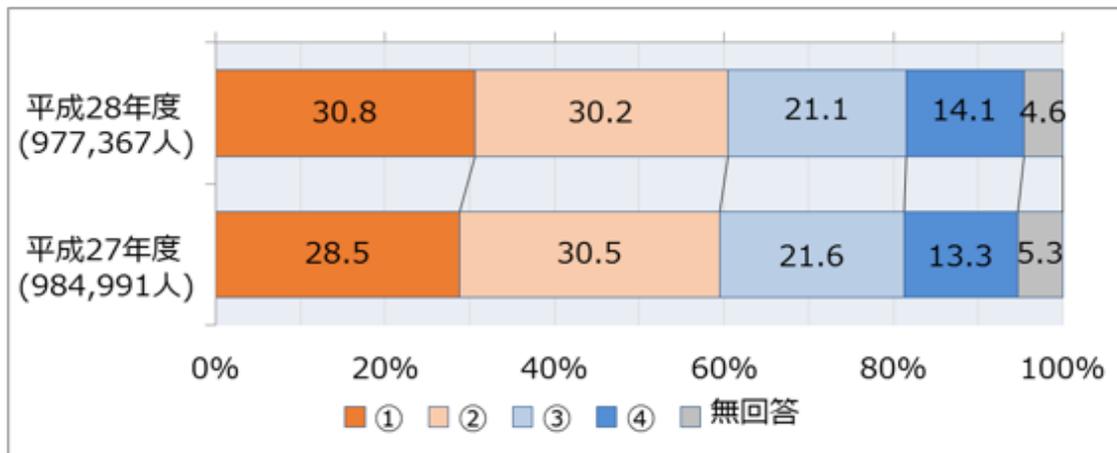
< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

○英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、61.0%。平成27年度の59.0%より2.0ポイント増加。

○「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.16- (2) 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス

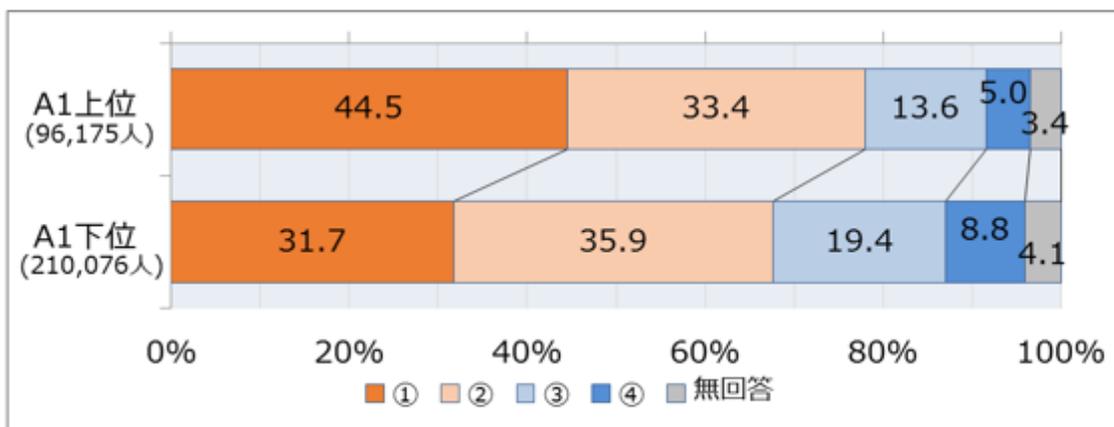
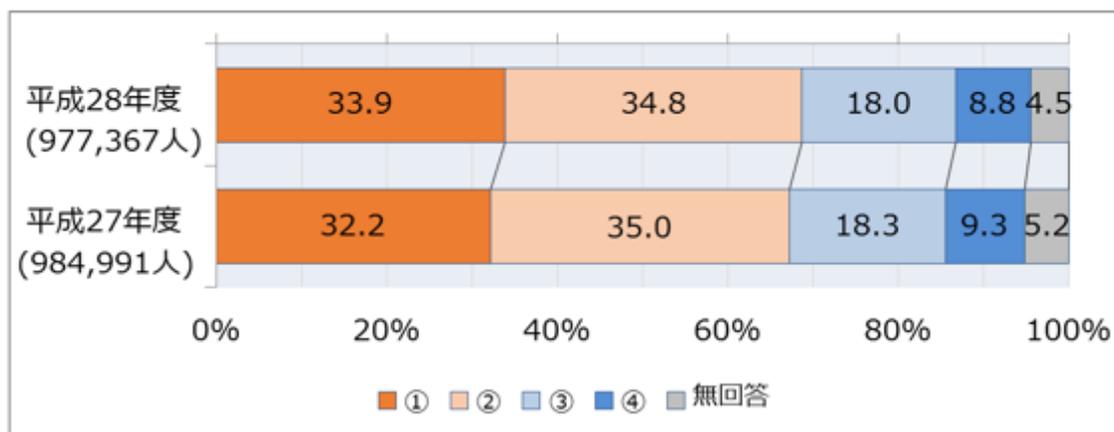
＜4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと）＞

○聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、68.7%。平成27年度の67.2%より1.5ポイント増加。

○「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.13- (2) 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス

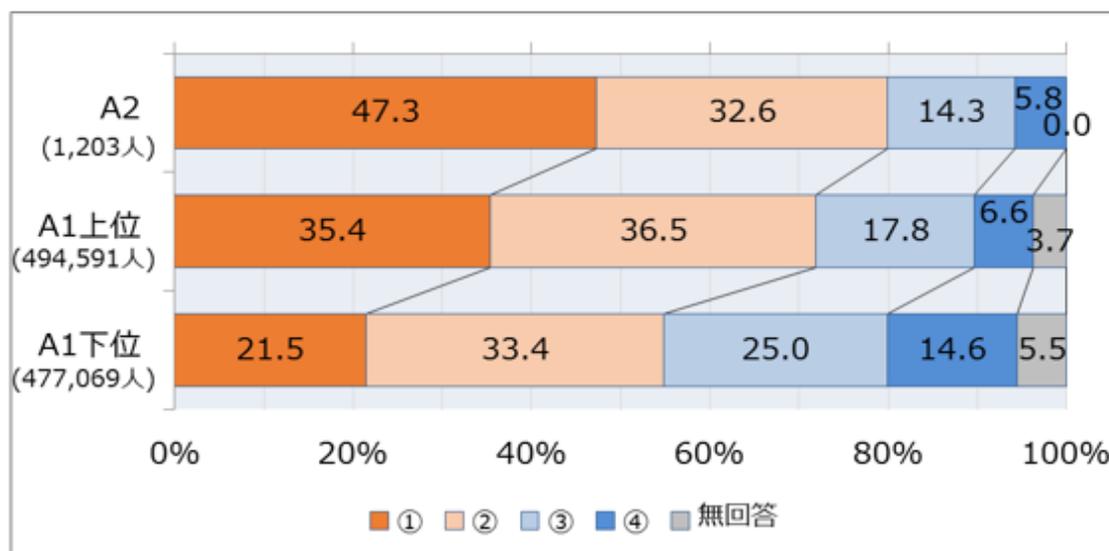
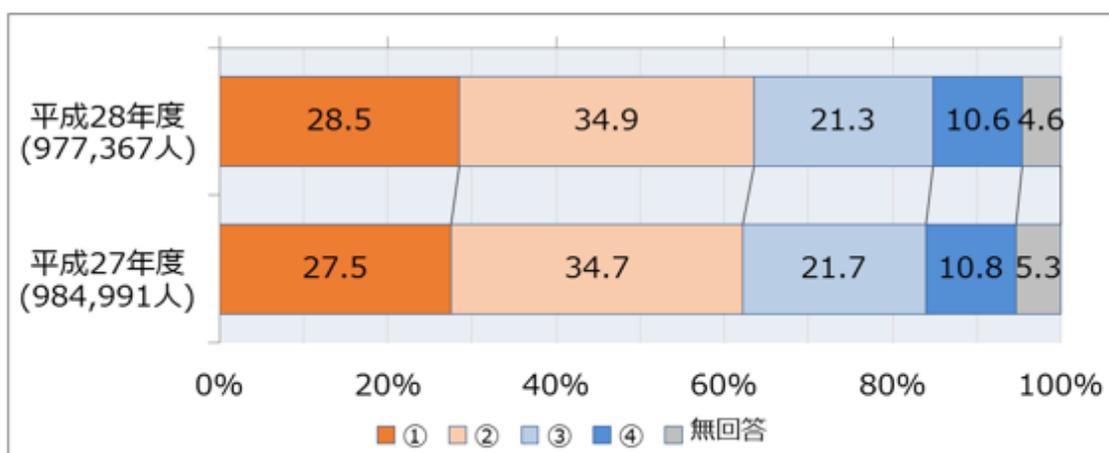
＜4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと）＞

○聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、63.4%。平成27年度の62.2%より1.2ポイント増加。

○「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.15-（2）第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「書くこと」のテスト結果とのクロス

②教員質問紙調査結果の主な特徴

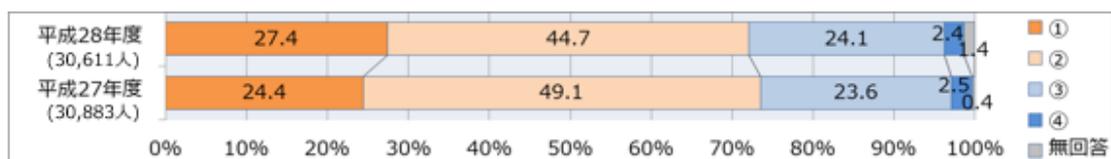
【授業における言語活動の指導に対する教員の意識】

<授業における言語活動の指導「聞くこと」>

○まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている（選択肢①②合計） 教員は、72.1%。平成27年度の73.5%より1.4ポイント減少。

No.1- (5) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

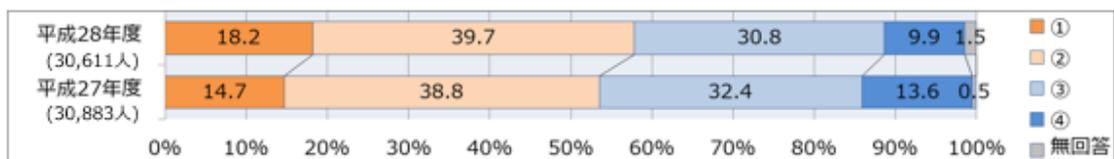


<授業における言語活動の指導「話すこと」>

○スピーチをする活動を行っている（選択肢①②合計） 教員は、57.9%。
平成27年度の53.5%より4.4ポイント増加。

No.1- (9) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

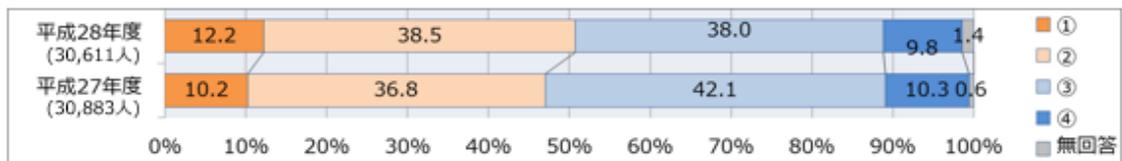


<授業における言語活動の指導「読むこと」>

○伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている
 (選択肢①②合計) 教員は、50.7%。平成27年度の47.0%より3.7ポイント増加。

No.1- (13) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

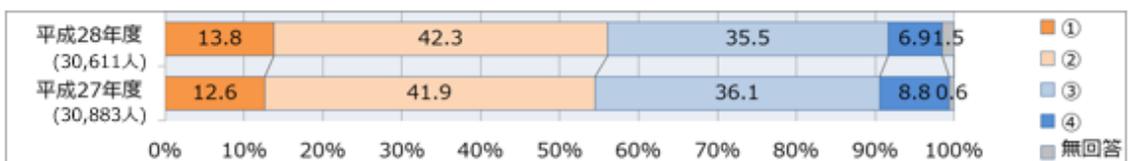


<授業における言語活動の指導「書くこと」>

○自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文章を書く活動を行っている
 (選択肢①②合計) 教員は、56.1%。平成27年度の54.5%より1.6ポイント増加。

No.1- (19) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

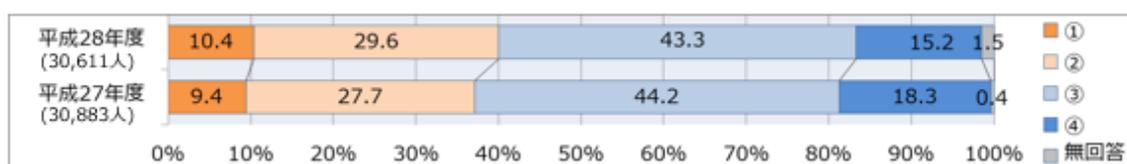


＜授業における言語活動の指導（技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動）＞

○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、40.0%。平成27年度の37.1%よりも2.9ポイント増加。

No.1- (7) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行いますか。

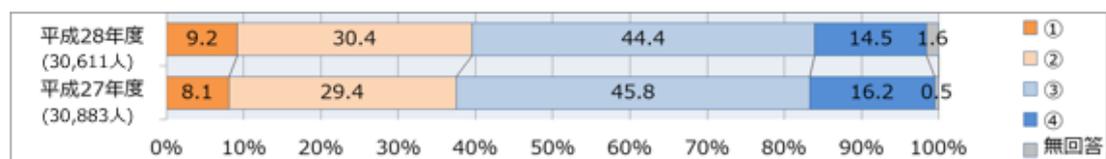
①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、39.6%。平成27年度の37.5%よりも2.1ポイント増加。

No.1- (17) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

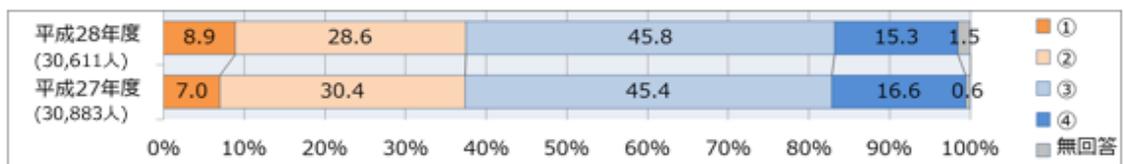


＜授業における言語活動の指導（技能統合型：感想を述べたり賛否やその理由を示したりするために、英語を読んで概要や要点をとらえる活動）＞

○英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている（選択肢①②合計）教員は、37.5%。平成27年度の37.4%よりも0.1ポイント増加。

No.1-（14）話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

① よくしている ② どちらかといえば、している③ あまりしていない ④ ほとんどしていない



4. 国立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

- 国立学校では、「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の4技能においてCEFR A1上位以上の割合が70%以上となっており、昨年度に引き続き公立学校よりも高い傾向。
- 「書くこと」「話すこと」の無解答はいずれも1%以下となっている。

【国立学校のスコア分布】

<読むこと>

読むこと		平成27年度		平成28年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
A2	170	2,397	24.0%	2,488	23.3%
	180	585		523	
	150	854		840	
	140	893		770	
	130	788	52.8%	828	51.5%
	120	854		821	
	110	907		942	
	100	809		938	
	90	727		831	
	80	595		884	
A1上位	70	431		450	
	60	279		281	
	50	137	23.2%	180	23.8%
	40	79		78	
	30	32		35	
	20	23		8	
	10	12		14	
	0	4		8	
	平均	128.8		127.8	
	調査対象	9,988		10,807	

<聞くこと>

聞くこと		平成27年度		平成28年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
A2	170	1,829	18.3%	2,139	20.2%
	180	584		887	
	150	878		795	
	140	870	51.9%	908	52.8%
	130	981		1,022	
	120	1,039		1,115	
	110	1,074		1,077	
	100	993		944	
	90	843		789	
	80	583		495	
A1上位	70	333		287	
	60	139		120	
	50	49	29.8%	59	23.8%
	40	18		28	
	30	10		14	
	20	2		5	
	10	8		12	
	0	13		5	
	平均	128.7		131.5	
	調査対象	9,988		10,811	

<書くこと>

書くこと		平成27年度		平成28年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
A2	95	0		1	1.4%
	90	0		0	
	85	0	2.0%	2	
	80	8		0	
	75	23		19	
	70	188		128	
A1上位	65	522		449	
	60	1,808		1,741	
	55	1,734		2,085	
	50	1,451	97.2%	2,319	90.2%
	45	1,435		1,277	
	40	1,141		1,181	
	35	809		491	
	30	377		277	
	25	202		105	
	20	132		77	
A1下位	15	48	10.8%	111	7.9%
	10	125		148	
	5	38		0	
	0	183		118	
	平均	49.9		51.3	
0点のみ	88	0.9%	118	1.1%	
調査対象	9,998		10,538		

<話すこと>

話すこと		平成27年度		平成28年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
A1上位	14	820		819	
	13	484		399	
	12	418	74.4%	373	78.2%
	11	318		347	
	10	288		323	
	9	190		191	
A1下位	8	159		180	
	7	151		114	
	6	100		98	
	5	84	23.8%	98	23.4%
	4	18		0	
	3	15		48	
	2	10		14	
	1	3		8	
	0	7		2	
	平均	11.1		10.8	
調査対象	2,903		2,979		
0点のみ	7	0.2%	2	0.1%	

3. 国立学校の質問紙調査結果

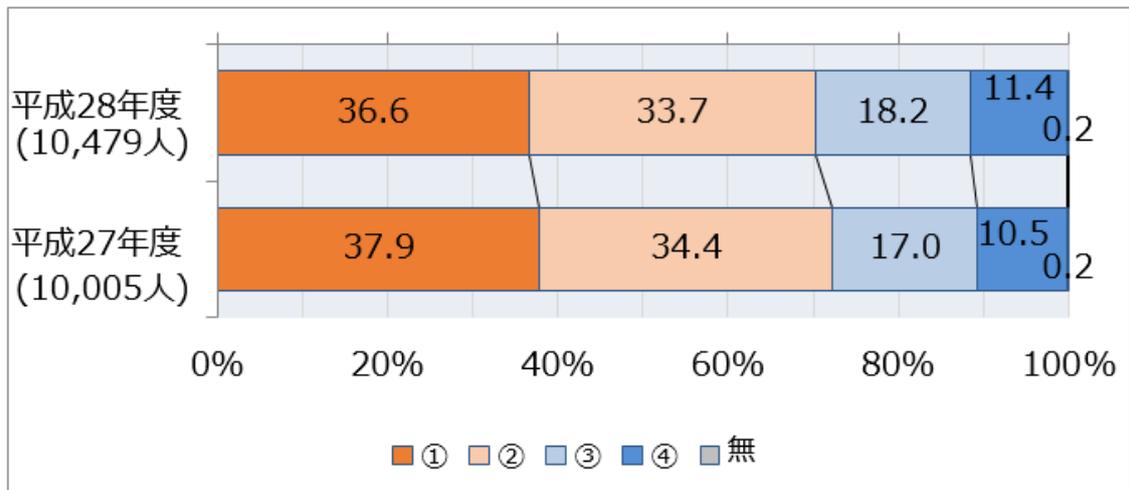
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

【英語学習に対する意識】

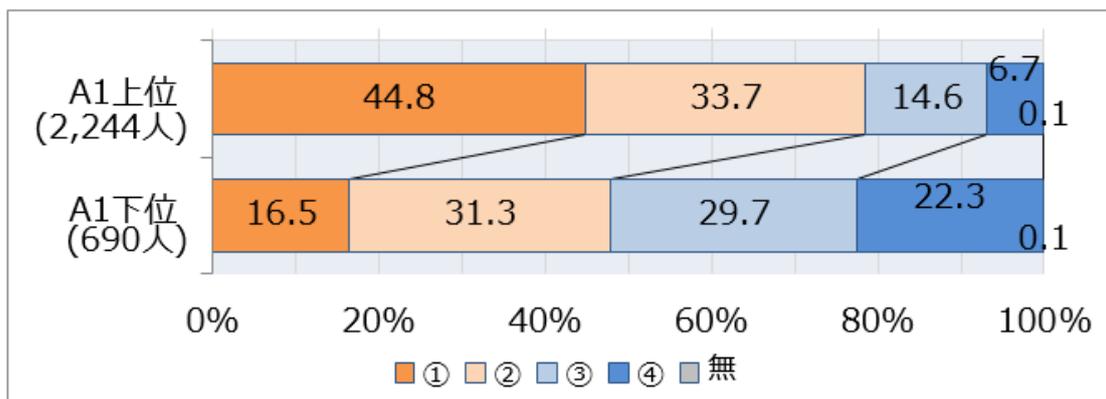
○ 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■「話すこと」のテスト結果とのクロス

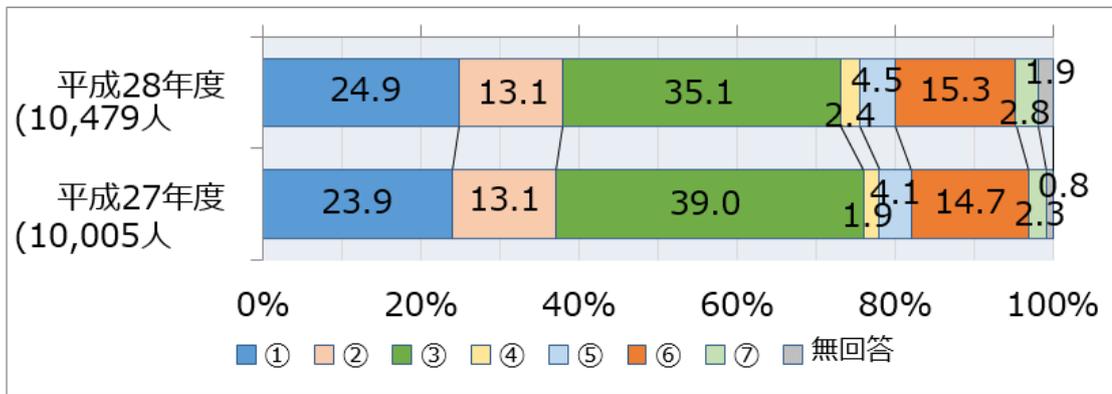


【現在の英語力と将来の英語使用のイメージ】

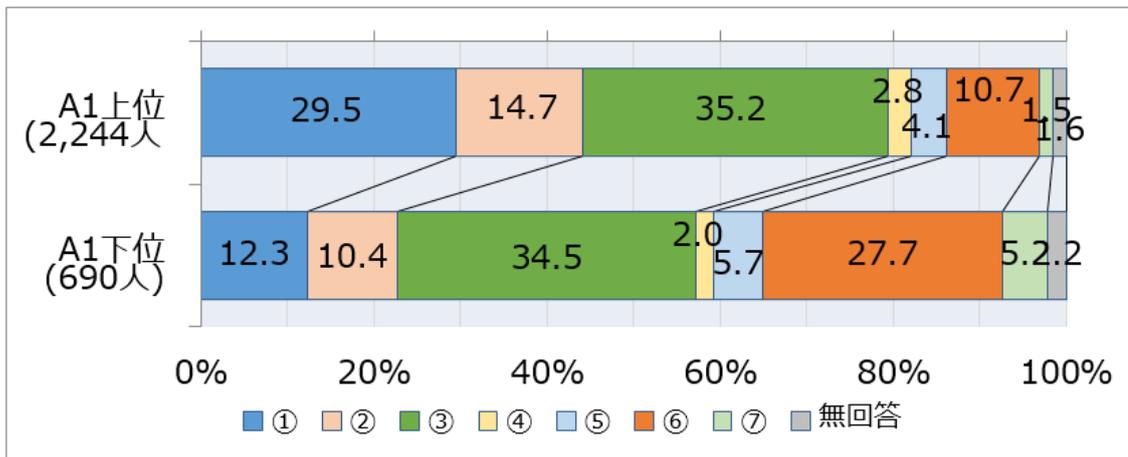
○ 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

No. 3 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ③海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい ⑥高校入試に対応できる力を付けたい ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



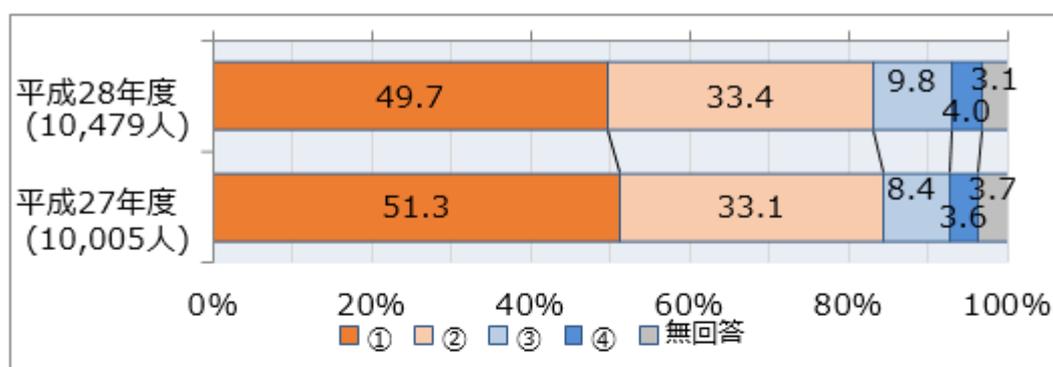
【4技能の言語活動に対する生徒の意識】

< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」 >

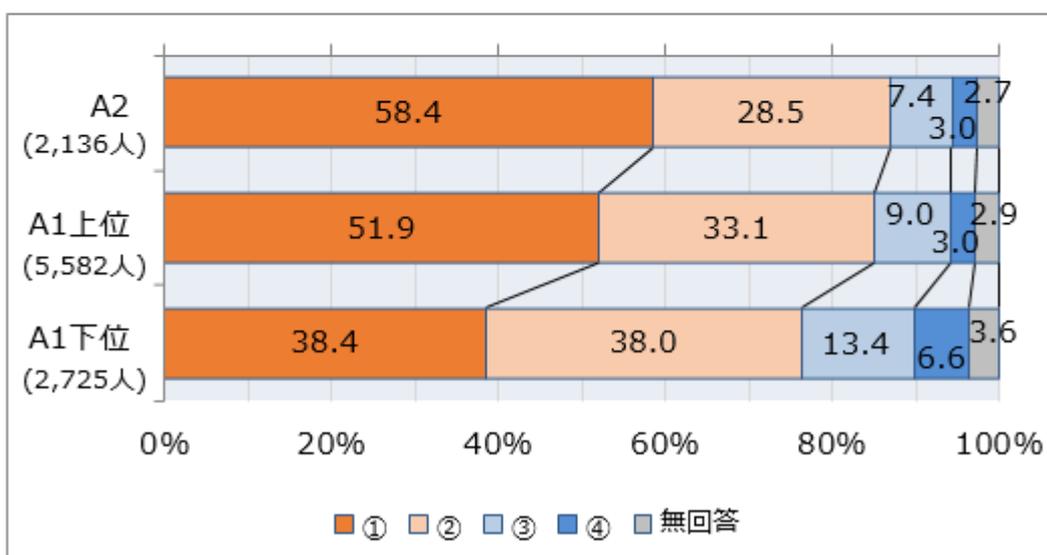
- 英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は83.1%。
平成27年度の84.4%と比較して1.3ポイント減少。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.12 第2学年の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス

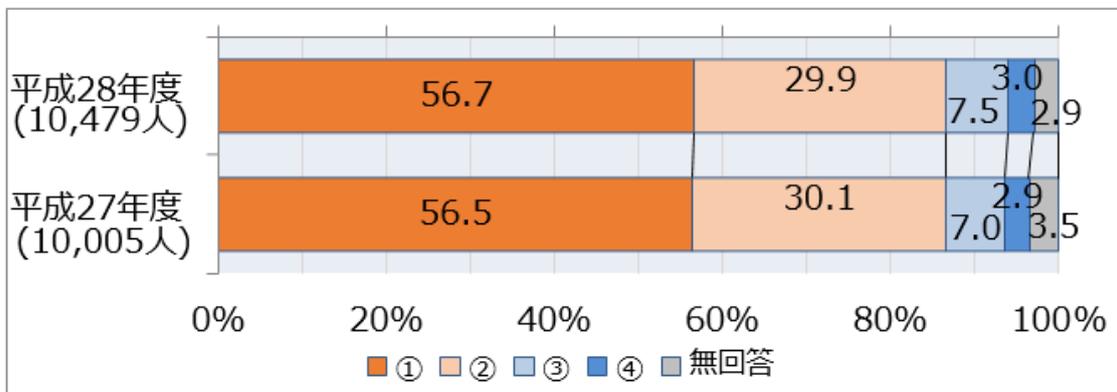


< 4 技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」 >

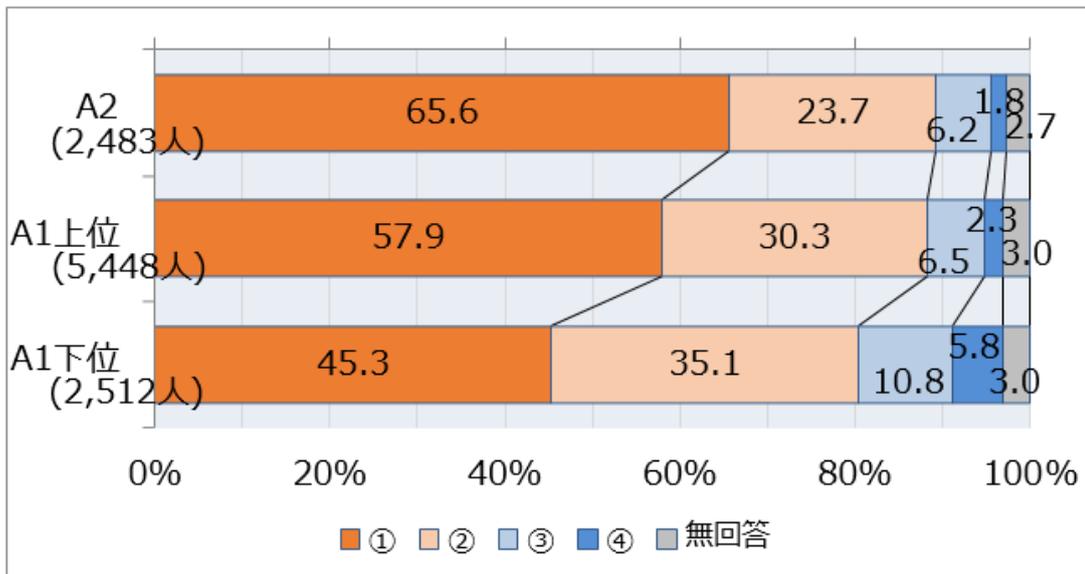
- 英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、86.0%。平成 27 年度の 86.6%と比較して 0.6%減少。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.13 第 2 学年での英語の授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「読むこと」のテスト結果とのクロス

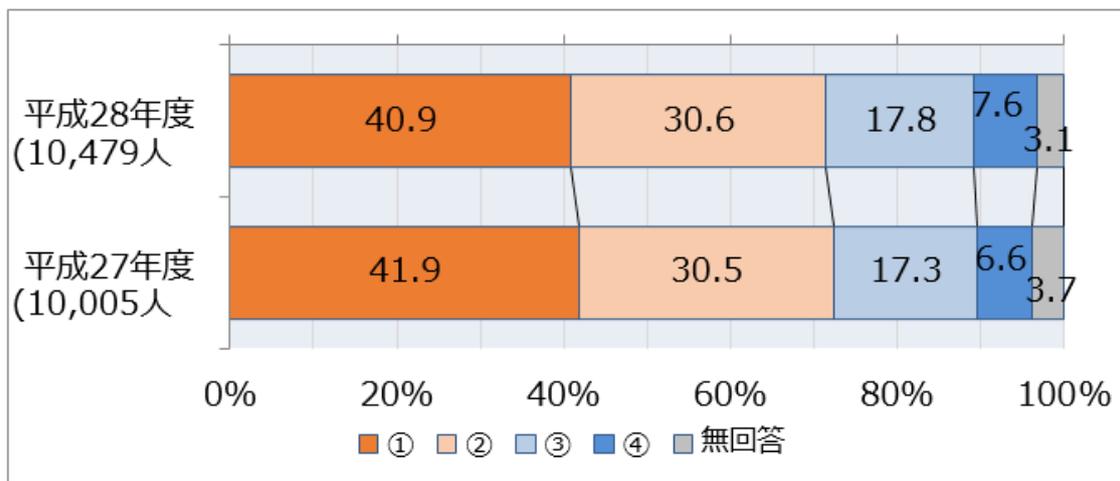


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

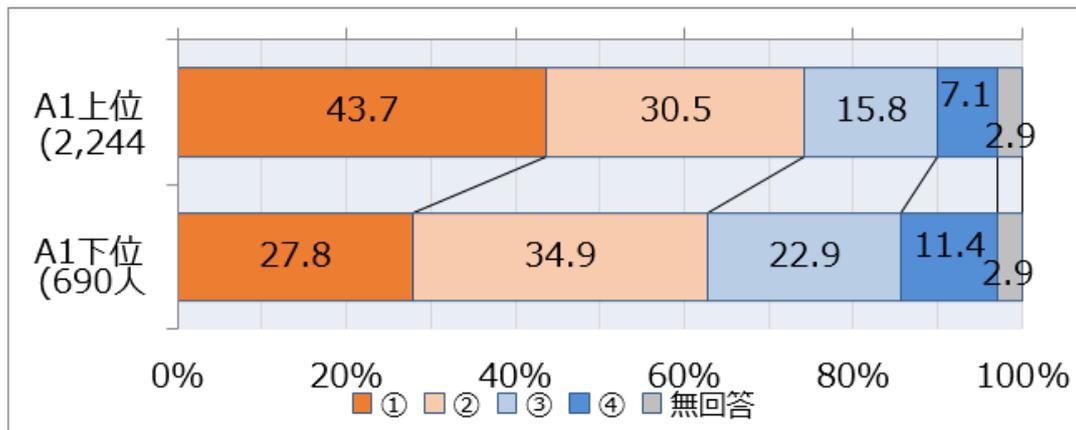
- 与えられた話題について、即興で話す活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、71.5%
平成27年度の72.4%と比較して0.9ポイント減少。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、
即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.15 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をして
いたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

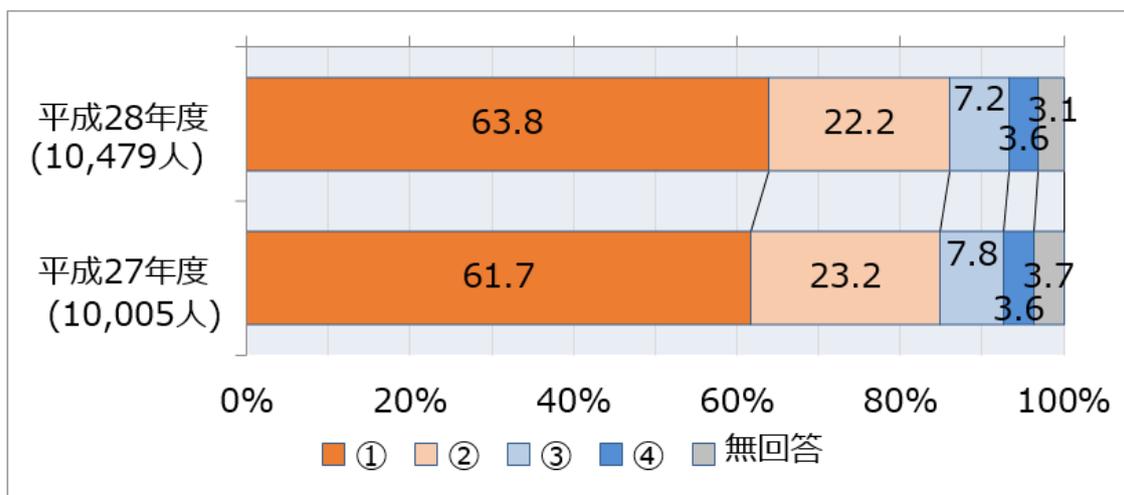


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

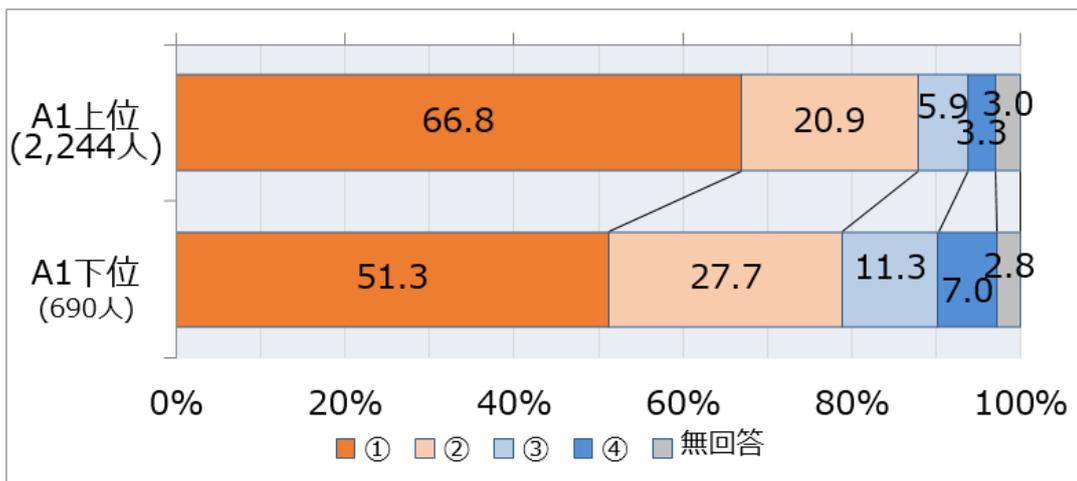
- 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、86.0%。平成27年度の84.9%より1.1ポイント増加。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.16 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

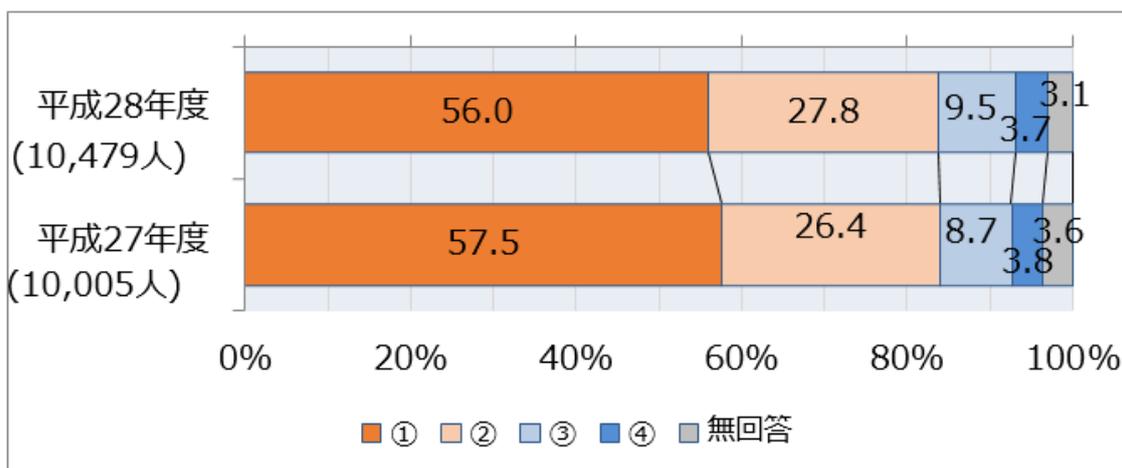


＜4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと）＞

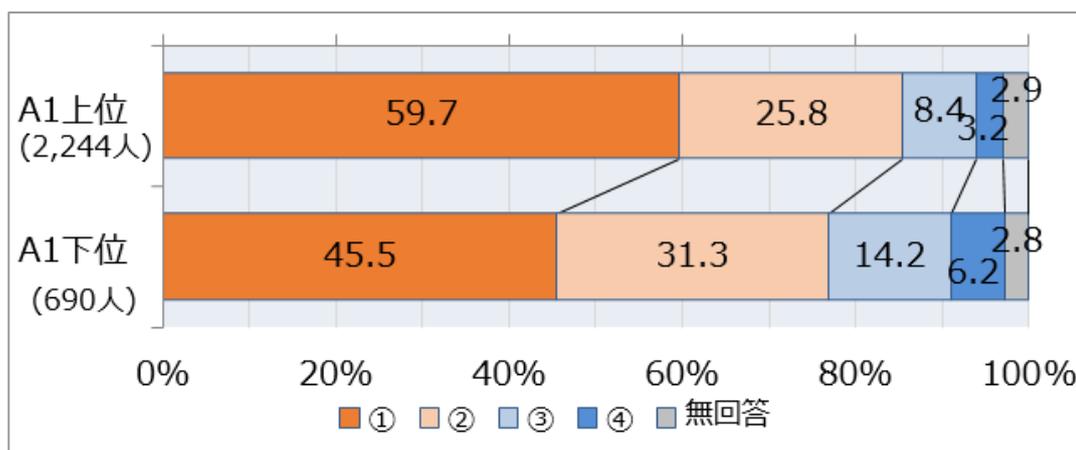
- 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、83.8%。平成27年度の83.9%より0.1ポイント減少。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.14 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

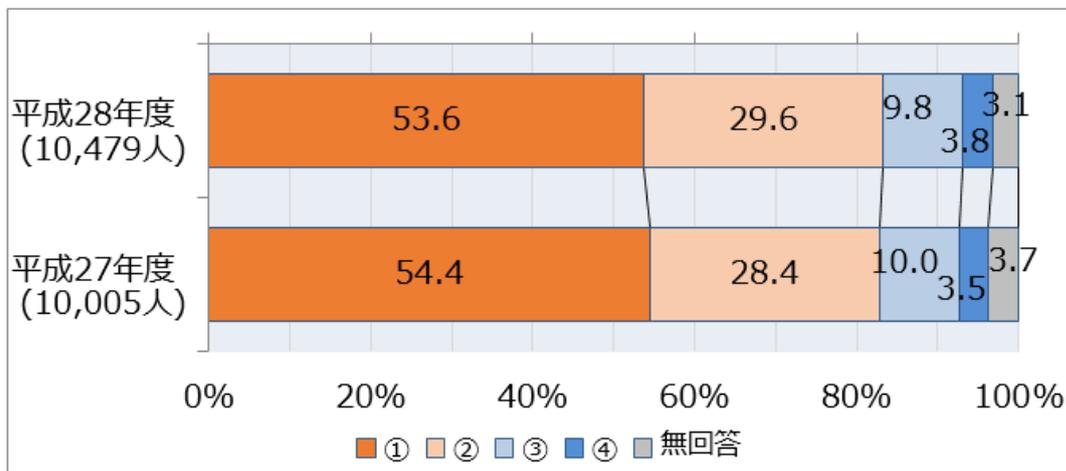


＜4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと）＞

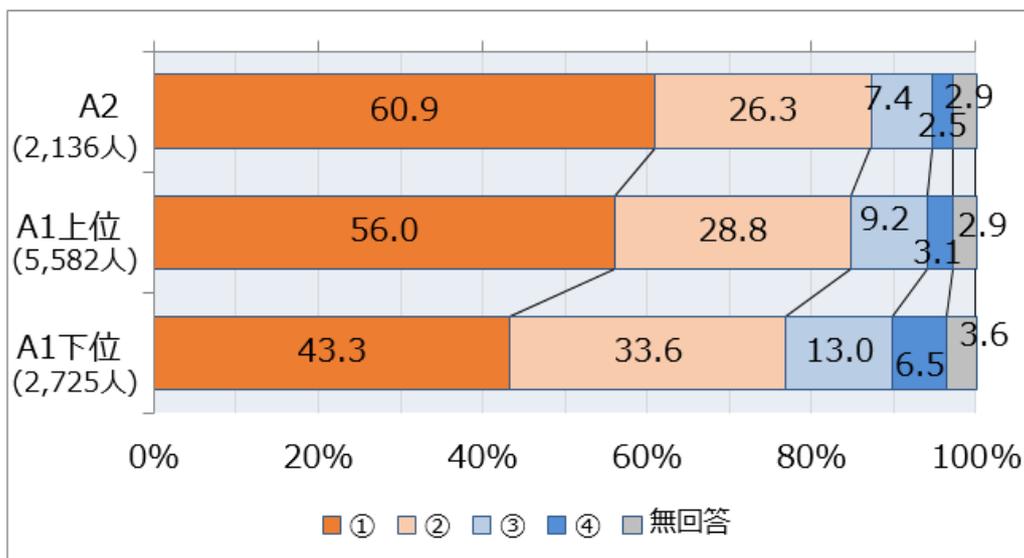
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、83.2%。平成27年度の82.8%と比較して、0.4ポイント減少。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.15 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス



②教員質問紙調査結果の主な特徴

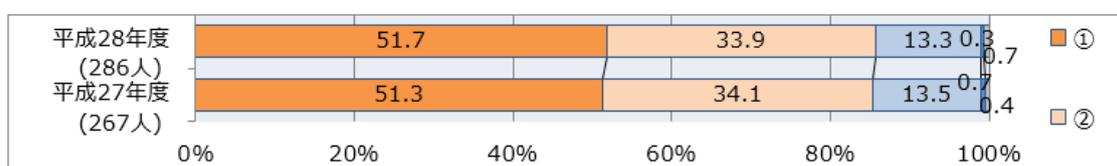
【授業における言語活動の指導に対する教員の意識】

<授業における言語活動の指導「聞くこと」>

- まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、85.6%。平成27年度の85.4%と比較して0.2ポイント増加。

No.1- (5) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

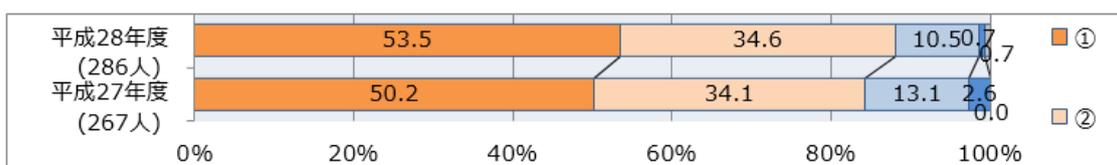


<授業における言語活動の指導「話すこと」>

- スピーチを行っている（選択肢①②合計）教員は、88.1%。平成27年度の84.3%と比較して3.8ポイント増加。

No.1- (9) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

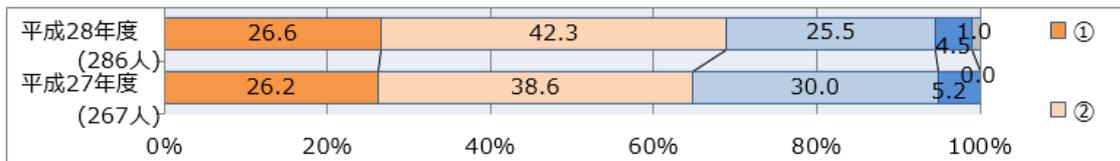


<授業における言語活動の指導「読むこと」>

○ 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、68.9%。平成27年度の64.8%から4.1%減少。

No.1- (13) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

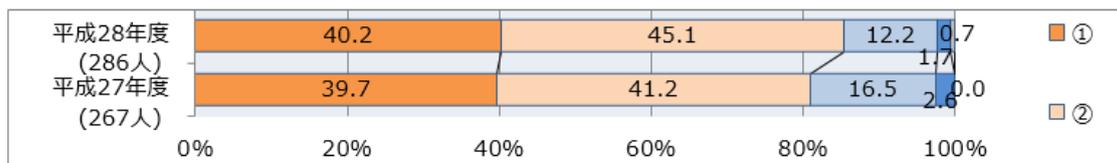


<授業における言語活動の指導「書くこと」>

○ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文章を書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、85.3%。平成27年度の80.9%と比較して4.4ポイント増加。

No.1- (19) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

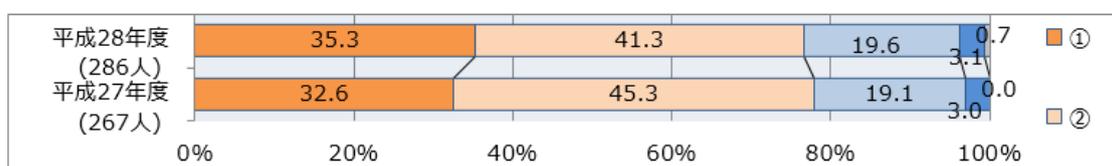


<授業における言語活動の指導<技能統合型:聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動>>

- 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、77.6%。平成27年度の77.9%と比較して0.3ポイント減少。書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、73.4%。

No.1- (7) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行いますか。

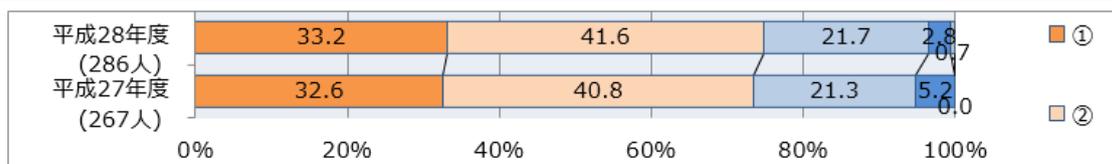
①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



- 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、74.8%。平成27年度の73.4%と比較して1.4ポイント増加。

No.1- (17) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



<授業における言語活動の指導<技能統合型:感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、英語を読んで概要や要点をとらえる活動>>

- 英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている（選択肢①②合計）教員は、76.2%。平成27年度の71.1%よりも5.1%増加。

No.1・(14) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

